

“令和六年敬念寺「報恩講法要」のご案内”
 ～「お斎」再開！皆様のご参拝お待ちしております！～



恒例となりました！昨年も菊鉢で皆様をお迎えした境内のようす(5.11.12)



発行所
 岡谷市郷田一丁目6番3号
 TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
 発行 行
 敬念寺門信徒会
 編集 集
 会報組織委員会
 朝7時はみ仏さまや
 彼(か)の人との
 出会(であ)いの時間

本年の報恩講法要について

慈光のもと、門信徒の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと思います。
 今年も、宗祖親鸞聖人の御命日をご縁とする報恩講法要の時期が近づいてまいりました。
 長らく種々制約をしながらの報恩講法要として勤めてまいりましたが、新型コロナウィルス感染の状況が落ち着いてきていることから、本年の報恩講法要は五年ぶりに法要後の「お斎」を再開することいたしました。
 好評の「敬念寺汁」も提供すべく、婦人部の皆様が進んでまいります。
 本年最後の法要となります。皆様お誘い合わせでご参拝下さるようお願いいたします。
 敬念寺住職 釋 宏真

敬念寺報恩講法要の御案内

私ども門信徒にとって大切な「報恩講法要」を次のように計画しております。
 門信徒の皆様が親しく触れ合えるように、五年ぶりに法要後の「お斎」も計画しております。
 大勢の皆様がご参拝下さるようお願い申し上げます。

★日時 令和六年十一月十日(日) 十時～
 (四頁の別途ご案内記事をご覧ください。)
 門信徒会長 千原 博幸

令和元年からの報恩講法要の経過

- ★令和元年 法要 お斎 門信徒作品展
- ★令和二年 法要 お斎無し 協賛行事縮小
- ★令和三年 法要 " "
- ★令和四年 法要 " "
- ★令和五年 法要 " 門信徒作品展

ご寺院行事

- 11月10日(日) 報恩講法要 前10:00
- 1月1日(水) 元旦会(法要) 前7:00
- 1月16日(木) ご正当法要(新年初まいり) 前10:00
- 3月20日(木) 春の彼岸法要 前10:00

ご定例法話会

- 11月20日(水) 講師 菅原良成さん(島根県)
- 12月20日(金) 講師 深水謙昭さん(広島県)
- 1月20日(月) 講師 (未定)
- 2月20日(水) 講師 (未定)

いずれも毎月20日 夜7:00からです。

—夏季連続参拝行われる—

「夏季連続参拝」を昨年に続き開催することが出来ました。第四十二回目となる今回も、開始時間を朝七時、更に期間も五日間と縮小した企画でした。

猛暑の影響もあつてか、参加された方々は十二名と昨年から半減してしまいました。正信偈のお勤めの後、ご住職からテーマ「終活」と題し、お墓のこと、御仏壇のこと、また、亡き方々への想いを伝える御葬儀のこと、夫々の意義などお話しいただき有意義な時を過ごしました。今年も山下様からご提供頂いた「鷺草」が飾られて、懐かしく喜びと共に寂しさを覚ええました。

(滝川 記)



お勤めの様子
今年も鷺草が届きました



—お寺の最近の動き—

～法要後の湯茶接待復活～

長引いた新型コロナウイルスス禍により、大きな制約をうけてきたお寺と門信徒会ですが、状況が落ち着いてきたことから、徐々に以前の活動が出来るようになってきました。

今年、法要(盂蘭盆会・秋彼岸)の後、参拝者が親しく触れ合えるように「湯茶」の場が復活しました。また、一頁・四頁のご案内にあるように、今年の報恩講法要後の「お齋」も再開することになりました。婦人部の皆様がお心を入れて作る「敬念寺汁」も準備されています。懐かしい味を楽しみに、多くの皆様が参拝されるようお待ちしております。

(白田 記)



法要後湯茶の場の様子(6.8.16)

—地区世話人体制再構築—

～小委員会でも検討しています～

敬念寺では「地区世話人」が組織されています。お世話人の皆様にお願いしている仕事は、

- ・担当地区門信徒の掌握
- ・寺報「敬念寺だより」他の配布
- ・門信徒会費の集納 等です。

(門信徒総会で代議員を兼ねる)

組織の現状

ここ数年の間に、お世話人不在の地区が増加しています。お寺で後任の人選等をお願いしていますが、難航しているのが現状です。

小委員会での検討

このため、今年五月から小委員会(住職、門信徒会長、会報組織委員長、財務委員長)で、「組織体制の再構築、制度見直し」の検討をしています。

○第一回目(五月)

- ・現状分析
- ・地区世話人の在り方 等

○第二回(七月)

- ・地区世話人の今後の在り方
- ・他寺院のお世話人組織は?

○第三回(九月)

- ・地区世話人体制今後考えられる現状方式維持
- ・段階的経過措置を講じて維持
- ・大幅制度変更

★今後の検討の方向性

地区世話人制度を維持し、そのための最善の方策を検討していく。

敬念寺「初級講座」(住職主管)実施中!

～もっと知ろう! 浄土真宗について・お寺について～

今年度の活動計画として住職主管で(「初級講座」)が実施されています。敬念寺独自に「初級講座・入門講座」として企画しているものです。敷居を低くして、身近に「お寺や浄土真宗」などについて理解を深められる内容になっています。初回は9月6日(金)夜7時から開催されました。少人数の参加でしたが、皆さん熱心に耳を傾けていました。今後も住職から個別に声掛けされます。ぜひご参加されますようお願いいたします。

「敬念寺基礎講座」連続研修の
参加者募集

大切な人をご亡くされた、どうして生かすのめがが解決するのですか?

お寺って? 仏教って?もよくわかりません

浄土真宗が、信者の人々の教えがわかりません。

現代社会の様々な問題に際して、宗教・仏教は役に立つのでしょうか?

◎お仲間と一緒に仏教、浄土真宗の教えを学びませんか?

開催要項

- 期 間 令和6年9月6日(金)～令和6年12月6日(土)4回
第1回開催日 9月6日(金) 19時～19時30分
- 会 場 敬念寺 本堂・会館
- 対 象 浄土真宗の信者
- 内 容 基礎講座、講話、話し合い、仏教、仏事など
- 申込み 令和6年 9月31日までに敬念寺へご連絡ください

お寺から

— 敬念寺の現在地 —

このところ周囲を見回しますと、マスクを外しておられる人が多くなつてまいりました。

下火になったとはいえ未だコロナ感染症の猛威は続いております。

住職継職からほどなくこの感染症は蔓延し、社会においては対策に追われ寺院活動もまた制約を受ける形で現在に至っております。

特に感染拡大を避けるために「三密の回避」は大きく影響を受けていました。お寺での法要・儀式においては寺院側で勤める法要だけでなく、各ご門徒が勤めるご法事・葬儀の集いが中止や延期、また小規模になりました。

お寺のいろいろな集いの場が制約を受けることは寺院活動の中心である伝道・布教という大切な環境が奪われていくことになり、寺門興隆・念仏相続に大きく影響しております。

今回の感染症の問題だけでなく社会状況を鑑みながら、今後の寺院活動のあり方をしっかりと見定めていくことが重要です。

お寺の在り方

これからのお寺のあり方についていくつかの問題点を挙げながら課題を共有したいと思います。



◎お寺・門徒を取り巻く社会状況

現在の法律では、信教の自由が認められています。浄土真宗に限らず特に仏教においては個人の宗教ではなく家族・家庭といった単位での信仰になつております。

親の背中を見て生き方を学ぶという営みからすると当然のように思います。本来は一人一人がそれぞれの信仰を持つことが基本になっていきます。しかしながらお寺もまた家庭単位の関係を保ち続けているのが現状です。

この頃、ご法事や葬儀を勤める中でご門徒の家庭環境は大きく変わつてきていることを感じます。

世間では少子高齢化や核家族化という問題がよく言われています。三世代が同一世帯にいない家庭が多くなりました。同時に世代交代時にお寺から離れた遠隔地へと転居されることも増えてまいりました。

このことは、同一の生活圏を維持することが困難になり、良くも悪くも「親の背中を見て育つ」ことや家庭においての社会性を身に着ける環境が減つていくことになり、「お念仏を子や孫へ」というスローガンにあるように、家庭を中心に継いでいくという「み教え」の継承の場が減つていくことになりま。

語るのではなく親の背中を見て育つという環境の減少、無意識の中に培われてきた「そういうものだ」といった雰囲気の中で伝播していく

み教えは薄れつつあるといえます。

また、人生における選択枝・社会の多様性(自由な生き方)という恵まれた状況は、築き上げた社会の功績であると同時に不変であるみ教えの伝承ということを難しくしています。

また、個々のいのちを尊重することとは大切なことですが、いのちをみ教えに照らし生きるといふ営みを継承するには相反する傾向があります。

家庭の中でみ教えを継承するというかたちから、家庭・家族の中でも一人一人のいのちが、み教えに出遇つて行く必要がより求められていかなければなりません。

そのような状況にありながら、現在お寺の伝道教化の姿勢はこの状況に対応できていないのが現状です。

家庭の中で誰か一人(年長者)が教えに遇うのではなく老若に伝道・布教が必要であり、だれでもみ教えに出遇うことができる機会を作らねばなりません。

この事例だけでなく不変のみ教え(念仏の教え)を守りつつ、伝道・布教の体制やまたお寺の組織体制などを工夫していく必要があります。

◎寺院・住職の課題

前任職から任を受けすでに五年が経過しました。

ここまでお寺を支えてくださった先達のおかげもあり、構え(施設・

習慣)は整うかたちにされております。

儀式・法要といったことは何とか持続していると思っております。

ご門徒の皆様は門信徒会中心に護寺活動をしていて下さっています。

前述の通り今後の伝道・布教という観点からは、このままでは順調に進むと申すことはできません。

社会状況が変化する中でみ教えをどのように伝えるか、伝道・布教ができるのか問われています。

寺院活動を牽引する住職としてどのようにみ教えをお伝えするのか、お寺の未来をどう描くのか、思案しその責務をしっかりと果たすことが最優先事項であると思つると同時に、目に見える活動として実現できていないことに反省をすることがあります。

寺院の牽引役として「全員伝道・全員間法」を掲げ、住職起案のもとに活動を実現するよう研鑽に励む所存です。

少しづつではありますがそのための行事や機会を計画・実行し始めております。今後お誘いをいたしますのでご参加ください。

釋 宏真



トピックス

「本山へ今年も絹糸献納」

本山への絹糸献納は、敬念寺がご下命をうけ平成元年から続いておりますが、今年も十月十日に行われました。

この絹糸は、本山の親鸞聖人御真影の念珠房として毎年使われるもので、門徒総代であった故山下幸治様が長らく物心両面で携わつ

令和7年回忌表

(あなたのお家は?)

1周忌	令和6年
3回忌	令和5年
7回忌	令和元年
13回忌	平成25年
17回忌	平成21年
23回忌	平成15年
27回忌	平成11年
33回忌	平成5年
37回忌	平成元年
50回忌	昭和51年

(上記を参考にご予約ください。)



本山に献納する千原さん (6.10.10)

てこられました。高年齢を理由に退かれ篤いお心をお寺に託し、令和二年から千原博幸さん(門信徒会長)が担当使者となり、毎年本山に赴き献納しております。(百三十一号二頁他に関連記事)



献納された絹糸(親鸞聖人坐像の念珠房に!)

令和六年度 報恩講法要のご案内

「今年最後の法要です。おさそい合わせてお参り下さい」

◆日時 令和六年十一月十日(日) 午前十時から
◆日程 (開始十分前には入堂御着席ください。)

○受付 九時三十分～九時五十分

○会場 本堂

○報恩講法要(正信念仏偈・和讃) 十時～十時四十分

○コールガンダー仏教讃歌 十時五十分～十一時

○法話 十一時～十二時

講師 布教使 永井恵真さん 長野県真寶寺住職
講題 「報恩感謝」

◆お齋(おこわ・敬念寺汁、供物) 十二時～一時

◆報恩講協賛 菊花、山野草、絵画、写真、彫刻他

門信徒会費・護寺協力金納入の御礼

今年度の門信徒会費につきましては、皆様にそれぞれご配慮いただきありがとうございます。また、財務基盤強化のため平成二十八年度に新設され、九年目となった「護寺協力金」については、担当のお世話人様には毎年の説明とお願いに大変なご苦労をおかけいたしました。

今年度もお陰様で、大変多くの皆様方のご理解をいただき、七十四万円余(十月十六日現在)の尊いお心を賜りました。

ご協力下さった門信徒の皆様並びにお力添えいただきましたお世話人様に厚く御礼申し上げます。

この浄財は引き続き、「護寺基本金」に積み立てて今後の大規模営繕・大型法要費用等に備えてまいります。

ありがとうございます。

門信徒会会長 千原 博幸
財務委員長 西山 周治

